

東川アウトドアフェスティバルの歩み③ 本場カナダ・バンフへ

東川アウトドアフェスティバルの継続にあたり何が必要か？ それは運営する仲間と同じ思いを共有することではないか？ そこで本場カナダで開催しているフィルムイベントを仲間と一緒に体験することを思いついた。

「自分がカナダ行きただけでしょ」と言われるとそれまでだが、これからやろうとしていたイベントの方向性、そして大きく言えば、賛同して同行してくれた仲間の暮らしや生き方にプラスになれば将来的に町へ還元できるのではないか…という思いがあった。

思いは東川とカナダ在住の友人たちの協力により実現した。毎年カナダ・バンフで開催されている世界最高峰のアウトドアイベント「マウンテン・フィルムフェスティバル」で東川町の観光PRブースを出展した。出展ブースには多くの人が訪れ、素晴らしいつながりもできた。

バンフは東川町の姉妹都市、キャンモアのお隣さん。私たちはキャンモアにも訪れ、町の人が自然やアウトドアを日常の暮らしで親しんでいる町づくりから刺激を受けた。私たちのイ



Nature Column (ネーチャーコラム)
自然ガイドなどで活躍する人々をリレーしています。

ントが歩んできた道、方向性を、カナダでの時間を共有した仲間と肌で感じ合えた瞬間は今でも忘れない。

3たび続けたバンフへの出展によって、カナダから東川、大雪山を訪れる人も現れた。山を通して東川に人が集まり、そしてここから世界へ発信していく。登山ガイドの小さな思いではじまったイベントだが、「つながり」によって面白い方に導かれていった。

43回も開催している本場のバンフ・マウンテン・フィルムフェスティバルの運営者がコメントしていた。「『やめたい。もう二度としない』と途中で思っても、まだ、イベントをやっている自分がいる」と。正直、昨年は自分の運営下手もあり、「限界」と思った。でも今、雪解けとともに、今年の東川アウトドアフェスティバル開催の日程を考えている自分がいる。「東川が好き」「山が好き」というシンプルな原動力がある。イベント活動も山登りと一緒。一歩一歩進めば、そこには美しい光景や充実感があったりする。

(終わり)

東川アウトドアフェスティバル実行委員長、山ガイド
青木倫子



ウズベキスタンの民族と習慣

東川町国際交流員 (CIR)

ナルギーザ(ナノ)ニグマノヴァ

ウズベキスタンは、いろいろな民族で構成され、言葉も文字も生活習慣もさまざまな人々が共存して独自の文化が発展しています。

ウズベク人は、中央アジア南部地域で最も人口の多い民族で、宗教はおおむねイスラム教です。純粋なロシア人は少なく、ウクライナ人、ベラルーシ人、ドイツ人、ユダヤ人、タタール人、朝鮮人など、さまざまな民族との混血が多いです。

中央アジアには、旧ソ連の朝鮮人の約7割が住んでいて、中央アジアの朝鮮人はロシア語を母語とし、名前もロシア式の名前が一般的です。人口の約80%を占めるウズベク人はウズベク語を母語としています。地方ではウズベク語を母語とする割合が高いですが、首都・タシケントでは人口の約半数がロシア語を話し、一般的にロシア語が使用されています。



ウズベク人はさまざまな文化を持つ民族です。挨拶するときは握手をするのが普通であり、握手している時に健康や仕事のことなどを話します。また右手を心臓の辺りに置いて丁寧にお辞儀をします。ただし女性は握手しませんが、先に手を伸ばすこともしません。

多くのウズベクの家庭では年上を敬い、家長に従う文化と習慣が何世代も続いています。ウズベクの女性は、家庭では母、妻であり、主人や夫の親に絶対に従います。これは差別的というのではなく伝統的な習慣です。

家に招待される場合は、それを断ると相手を傷つけることになります。招待された人はお土産やお菓子を持って行くのが礼儀です。

家長が門で出迎え、挨拶し、家の大きな部屋か庭に招き入れます。玄関では必ず靴を脱ぎます。食卓は部屋かペランダのまん中、または庭の木の下に用意することが普通です(ぶどうの場合が多い)。お客さまは奥に座ってもらい、まずお菓子やドライフルーツ、野菜などでもてなし、必ず伝統的な料理で振る舞いに出ます。食事は必ず食事と一緒に、必ずお茶も飲みます。